

教育委員会 8 月定例会会議録

1 会議の名称 中之条町教育委員会 8 月定例会

2 会議の期日 平成 3 0 年 8 月 2 3 日 (木)

3 会議の場所 中之条町ツインプラザ 教育長室

4 会議に出席した委員・教育長

教育長	宮崎 一
委員 (教育長職務代理者)	登坂 初夫
委員	清水 博巳
委員	小菅 加代子
委員	高橋 久夫

5 会議に出席した職員

こども未来課長	宮崎 靖
生涯学習課長	富沢 洋
教育指導係長	矢嶋 将之
総務係長	飯塚 和子

6 議 題

議案第 1 号 平成 3 0 年度教育費等予算の補正について

議案第 2 号 第 5 6 回吾妻警察署長杯ソフトテニス大会の共催について

7 協議事項

- (1) ふるさと体験事業について
- (2) 中之条町立六合中学校検討委員会について
- (3) その他

8 その他

- (1) 平成 2 9 年度教育費等決算について
- (2) 夏季休業中の児童・生徒の状況等について
 - ・部活動の結果
 - ・県防災ヘリコプター「はるな」墜落事故について
 - ・適応指導教室について

- (3) 管内小中学校等におけるエアコンの設置状況について
- (4) 町民プールの休場基準について
- (5) イングリッシュサマーキャンプについて
- (6) 郡民体育祭について
- (7) その他

9 開会

平成30年8月10日の県防災ヘリコプター「はるな」墜落事故において、亡くなられた方々に哀悼の意を込めて黙祷を行った後、開会する。

午前9時30分、教育長、教育委員会会議の開催を宣す。

教育長より開会の挨拶。

(改めて、県防災ヘリコプター「はるな」墜落事故のご遺族に、心からお悔やみを申し上げます。各学校で2学期が始まった。現時点において、当事故以外に、教育委員会で把握している事案は無い。なお、8月28日に開催する管内校園所長会議においても、夏季休業中の児童生徒の細かい状況を把握する予定である。部活動等において、管内の生徒の活躍の様子が、新聞報道されている。2学期についても、引き続き、環境及び教育内容の充実を推進したい。)

10 会議録署名人の指名

教育長が今回の会議の会議録署名人に、登坂初夫委員を指名。

11 会期の決定

会期の決定 本日一日限り

12 前回会議録の承認

全員異議のないものと認め、承認。

13 報告事項

(1) 教育長等執務報告

教育長より、平成30年7月18日から平成30年9月20日までの行事等について報告。
(幼稚園・小学校・中学校一学期終業式、臨時議会、全国花のまちづくり中之条大会開会式、全国花のまちづくり中之条大会交流会、中之条町長杯争奪町内対抗野球大会、六合地区3校園訪問、県管理主監・管理主事研修会(六合小学校・六合中学校)、姉妹市町締結40周年記念交流事業 第20回大綱白里市 浜まつり(台風12号接近により中止)、郡小学生水泳大会、大綱白里市子ども会来町、第1回六合中学校検討委員会、イングリッシュサマーキャンプ、学校人事課・郡教育長懇談会、県防災ヘリコプター墜落事故対応、下沢渡地区夏

祭り、県防災技術大会応援、県消防技術大会慰労会（中止）、家庭婦人バレーボール大会（中止）、少年の主張郡大会、吾妻広域圏理事会、吾妻広域圏第2回定例会、郡民祭団結式、軽スポーツ交流会（フットゴルフによる）、町文化協会研修発表会、山本隆雄町議会議長総合表彰受賞祝賀会、管内校園所長会議、中之条町平和式典・戦没者追悼式、六合地区運動会、次回定例教育委員会等について）

生涯学習課長より、「宝くじまちの音楽会」の予約状況と、総合運動場について報告。

（平成30年10月5日に、バイテック文化ホールで開催の、宝くじ文化公演事業「南こうせつ with ウー・ファン ～心のうたコンサート～」は、8月5日にチケット販売が開始された。現在、700枚を販売し、目標とする枚数は800枚である。

また、町総合運動場の野球の防球ネット工事のため、9月9日から野球場は、使用できないことを報告する。）

1 4 会議における議事の経過及び発言要旨

議案第1号 平成30年度教育費等予算の補正について

こども未来課長、生涯学習課長、議案資料について説明

- ・平成30年9月補正予算の内容について、資料に沿って説明する。

異議なく資料のとおり承認

議案第2号 第56回吾妻警察署長杯ソフトテニス大会の共催について

生涯学習課長、議案資料について説明

- ・青少年の健全育成を目的とし、町内で開催する。参加者は、吾妻郡東部3か町村の中学生テニス部員であり、例年、共催を行っている。

異議なく資料のとおり承認

1 5 協議事項

(1) ふるさと体験事業について

(こども未来課長)

まず、事業の経緯を説明する。当事業は、平成2年度に、企画課の地域づくり推進事業の一つとして、町の地域づくり推進事業基金を利用し、ヘリコプター搭乗体験による「空から訪れるふるさと再発見事業」として開始した。目的は、空から郷土を見つめ、視点を変えてふるさとを再発見し、町の将来を考えてもらうことである。初年度は町広報紙上で参加者を募集し、260人の応募者のうち抽選で200名が、保険料相当額の参加費1,000円を負担いただいたうえで、搭乗を体験した。

次年度の平成3年度からは、中之条中学校・西中学校の3年生全員を対象に、事業を実施し

た。後の平成17年度からは、現こども未来課が事業を担当している。旧六合村と合併後の平成22年度以降は、六合中学校3年生も対象とし、中之条地区と六合地区それぞれに、飛行コースを設定し実施している。なお、航空会社で行う搭乗者保険に、加入している。

委託事業者は、東邦航空(株)で、事業開始当初より同一の事業者委託している。今年、平成30年10月4日に実施する予定であった。例年、この頃の天候が一番安定しているために10月の第1木曜日に実施しているが、現時点においては、契約行為は行っていない。

ヘリコプター墜落事故直後のため、当事業の実施について検討を行いたい。各委員の意見を伺いたい。

(登坂教育長職務代理者)

委託事業者は、東邦航空(株)で、平成30年8月10日の県防災ヘリコプター「はるな」墜落事故と同一事業者であるので、事業を実施することに対して理解をいただけないと思う。例年、中学3年生を対象としていた事業を中止するのは残念であるが、保護者から理解が得られないと思う。

(清水委員)

生徒にとって、空から「ふるさと」を見る企画は、非常に良いと思うが、当航空会社は、上野村においても事故を起こしている。委託するのはいかがなものか。地域の保護者からも、ヘリコプター搭乗を懸念する意見があった。個人的には、航空会社に行政処分が下るまでは、実施を見合わせた方が良いと思う。

(高橋委員)

生徒にとって、ヘリコプター搭乗は、有意義な体験である。飛行機と違い低く飛行するので、上空から「ふるさと」を見る良い経験になる。しかしながら、当航空会社は事故が多発し、墜落事故後に判明した状況や対応を見ると、安全性への懸念が否めない。

(小菅委員)

私も、上空から「ふるさと」を見るヘリコプター搭乗は、貴重な体験であると思う。当航空会社は、上野村で事故を起こしている。息子が中学3年生だった時、同級生の保護者数名と生徒数名から、心配する意見を聞いた。どんな乗り物でも、絶対に安全であるという保証は無いと、承知している。しかし、子供の命を考えると、たとえ安全確認がされたとしても、これから先は、ヘリコプター搭乗体験を見直した方が良いと思う。

(教育長)

個人的には、ヘリコプター搭乗体験を実施するつもりは無い。上空から郷土を見るのは貴重な体験であるが、墜落事故の原因がはっきり分からない中では、100%安全とは言えない。また、本町に墜落事故の犠牲者が出ており、町民が心痛を感じている中では、事業実施に理解をいただけないと思う。

私としては、今年度は生徒の安全第一ということで、ヘリコプター搭乗体験を実施しない考えである。また、今後については、ふるさと体験事業の内容を改めて、別な発想で、卒業記念になるような代替案を考えてはどうか。担当職員と担当課長に、代替案の検討を指示した。テーブル

マナー講習が思い浮かんだものの、良い代替案があれば、次回の定例教育委員会までに、ご意見をいただきたい。

(登坂教育長職務代理者)

ヘリコプター搭乗体験は良い体験ではあるが、今回は、事業を見直す機会であろう。何か卒業記念になるような事業を実施できれば良いと考える。

(清水委員)

ふるさと体験事業の予算規模は、いくらか。

(こども未来課長)

運行経費として、260万円程度である。

(清水委員)

この予算規模であれば、いろいろな事ができると思う。

(高橋委員)

テーブルマナー案は良いと思う。例えば、旅行のようになってしまいが、歌舞伎の観劇も良いと思う。

(教育長)

ふるさと体験ということであるから、できれば町内で生産された農産物を利用した食事でテーブルマナーを体験できれば、なお良い。また、中之条町出身の芸能人である「タイムマシーン3号」を招く等、はじめから事業を再検討する必要がある。

(登坂教育長職務代理者)

以上の協議により、教育委員会として、今年度のヘリコプター搭乗体験事業は中止する。

(異議なく承認)

(3) 中之条町立六合中学校検討委員会について

(こども未来課長)

平成30年8月3日(金)に、中之条町ツインプラザで、第1回六合中学校検討委員会が開催された。会長を検討委員の中から選出し、学識経験者も参加し、各位の質問や意見を伺った。次の第2回検討委員会は、9月下旬に開催し、前回の質問事項について回答し、資料提示したいと考えている。本日は、第1回検討委員会について、各委員の感想をお聞かせ願いたい。

(清水委員)

学識経験者は、六合地区のことを、本気で考えている。地域の現状を熟知している方もいる。情報を共有しながら、一貫教育を含めて、どのようにすれば六合地域に住む子供達が、良い方向にいくのか、真剣に考えていただき、大変有り難い。結論はまだ先であるが、本気になって様々な場面で、より良い方向付けをして下さるだろう。

(小菅委員)

保護者一人一人の価値観は、部活動や学習、通学時間等、様々であった。学識経験者の意見も様々である。確認したいのだから、この検討委員会のメンバーの意見で、最終的な決定を行うのか。

(教育長)

検討委員でまとめた報告書をもとに、教育委員会会議や総合教育会議で決定する。首長は、予算規模を見て判断する場合もあるので、検討委員会の意見は、判断材料の一つになるだろう。

(小菅委員)

できる限り、会議には足を運ぶようにしたい。

(高橋委員)

学識経験者や保護者の意見を聞いて、非常に難しい問題であると感じた。各人の理想が存在する中で、予算との折り合いを付けなければならない。六合地区は特別な教育を進めており、少人数の学校でありながら実績もあるので、町全体で取り組む方向性が見つかれば良いと思う。

(登坂教育長職務代理者)

将来的には、吾妻西部地区の学校を、統合しないと解決できないと思う。町村を越えた組合立の学校の検討が必要である。教育予算は、教師1人あたりの生徒人数とは別個にして、考えた方が良く考える。

子供が一人になっても、地区で教育を受けさせるのが良いのだろうか。いずれは、大人数の世界に行かねばならない。私は、早めに大人数の環境を経験させた方が良く思う。少人数の環境の良い部分もあるが、個人的には、機会が制限されて、かわいそうに感じる。なるべく早く、次のステップに進めるように環境を整えた方が良い。

(清水委員)

かわいそうという発想は、理解できない。少人数であっても、高校や大学で活躍しているではないか。私は、早く大人数の環境を、経験させなくても良く考える。子供が、今置かれている状況下で、いかに能力を発揮できるかである。

(登坂教育長職務代理者)

例えば、少人数のため、部活動が制限されている現状がある。

(清水委員)

その現状は理解する。様々な考えがあるが、今後どのような話の展開になっていくか分からないが、皆が頑張っているのであるから、次の教育環境を現実的に捕まえて進めば良い。

経済的な原理を考えると、小さい学校にどれだけ教育予算を注入できるかは想像できないが、とにかく、現在も大事であるが、明日以降も大事であることを考えて、前に進めてあげたい。

(登坂教育長職務代理者)

その観点は理解する。沢田小学校と沢田中学校の学校統合時は、児童生徒数で見ると、地元から、学校をまだ存続できるという意見があった。しかし、人数の関係で部活動が制限されており、興味があっても、あきらめざるを得ない生徒がいることを聞いた。だから、学校統合することで、教育環境を整えてあげられると思い、統合に賛成した。大人数の子供達の中で、切磋琢磨できることが良く考えたからである。少人数のため、部活動が制限されるというのは、六合地区の保護者から、スポーツクラブの加入に補助金を出してほしいという意見を聞いて、サッカー等、人数を要するスポーツは難しいのだろうと、感じたことによる。

(清水委員)

少人数は今に始まったことではない。バレーボールの競技では、地域の人が集まって、手伝わることがあった。とにかく、現在も大事であるが、明日以降も大事であることを考えて、子供第一に考えて行きたい。先生方のやる気十分な姿勢を見ているので、良い方向に教育環境を整えたい。

(高橋委員)

難しい問題である。理想とするところと現実では、かなりギャップがある。

(小菅委員)

誰もが、子供のことを優先に考えている。

(清水委員)

六合地区は、学校統合を3、4回経験している。話し合いの席上で、はっきり意見できない人もいるので、分かりかねる点もあるから難しい。

(登坂教育長職務代理者)

教育委員会としては、次の検討課題を研究願いたい。

(3) その他

なし

16 その他

(1) 平成29年度教育費等決算について

(こども未来課長、生涯学習課長)

平成29年度決算説明資料について説明する。

(清水委員)

生涯学習課部門の「赤岩重伝建地区保存活用事業」の修理修景事業の内容を確認したい。この中に、湯本家の土地買上料が含まれているのか。

(生涯学習課長)

確認して、後ほど回答する。

(清水委員)

六合ふれあい町民プール管理事業について質問する。利用者数は206人であるが、光熱水費等維持費に、小中学校が授業で使用した分を含んでいるか。

(生涯学習課長)

含めていない。

(清水委員)

維持費が、かなり高額であると感じる。

(生涯学習課長)

利用者数については再度確認を取り、後ほど回答する。

(2) 夏季休業中の児童・生徒の状況等について

・部活動の結果

(こども未来課長)

中之条中学校及び六合中学校の生徒の活躍を、吾妻郡中学校総合体育大会結果資料により報告する。

・県防災ヘリコプター「はるな」墜落事故について

(こども未来課長)

8月11日に、犠牲者が町内在住の児童生徒の保護者であることを把握する。同月13日に、校長・教頭、担任等関係教諭が、対応について協議する。同月15日から17日にかけて、通夜・葬儀が営まれた。弔意を表すため、8月末まで役場及び支所に献花台を設置し、半旗掲揚を行う。同様に教委においても、管内校園所で半旗掲揚を行う。

・適応指導教室について

(教育指導係長)

7月と8月の適応指導教室通室状況について、資料により報告する。

(3) 管内小中学校等におけるエアコンの設置状況について

(こども未来課長)

中之条小学校においては、新設時に、普通教室にエアコンを設置した。六合小学校と六合中学校は、現在、網戸を設置する工事を進めている。中之条中学校は、南校舎の普通教室に、エアコン設置の工事を行っている。

中之条幼稚園と沢田幼稚園においては、平成30年8月6日の臨時議会において、エアコンの設置が議決され、8月20日に工期完了の予定である。

中之条保育所と伊勢町保育所、六合こども園のエアコンは、既に設置済みである。

(登坂教育長職務代理者)

先日の第1回六合中学校検討委員会で、PTA役員から、六合地区の小中学校にエアコンの設置してほしいという意見があった。将来的にはエアコンの設置が必要になるのか。

(教育長)

議会や文教民生常任委員会の中でも、六合地区の小中学校にエアコン設置を要望する意見があった。エアコンの設置が必要かどうかは、温度を定点観測してデータを集め、様子を見ながら判断をしたい。学校にエアコンの設置のために国庫補助を行うと報道されている。補助率が低いと、多額の町負担が生じるが、できるだけ対応を怠らないようにしていきたい。

(4) 町民プールの休場基準について

(生涯学習課長)

プール営業の熱中症対策として、気温と水温の上限を検討した状況を、時系列の資料にした。高気温時は、「WBGT 31度以上 かつ、水温+気温=70度を越えた場合」で、プールを休場するとした。WBGT 31度以上とは、気温と相対湿度との関係を示すもので、31を越すと危険であるとする。水温と気温でも、判断する。今月13日より、当基準を参考にして、中之条地区と六合地区の両方において運営を行っている。現時点でプールの休場はないが、来年度に向けてこの基準で運営する。なお、六合温泉医療センターと四万診療所の医師に相談したうえで、基準を設けたことを報告する。

次に、8 その他 (1)平成29年度教育費等決算について、「赤岩重伝建地区保存活用事業」の詳細と、六合ふれあい町民プールの利用者数について回答する。

「赤岩重伝建地区保存活用事業」の経費には、土地買上料は含まれていない。土地買上料は、「文化財保護管理事業」において計上している。六合ふれあい町民プールの利用者数には、授業で使った児童生徒の人数は含まれていない。授業で使う人数は含まれていない。

(5) イングリッシュサマーキャンプについて

(教育指導係長)

参加者にアンケートを行った結果を申し上げる。イングリッシュサマーキャンプに参加しようと思ったきっかけは、家族の勧めが多いことがわかる。また、「英語が好きだから」よりも「英語を話せるようになりたい」が多いことから、参加者の願いに沿えるような活動を工夫していく必要があるといえる。

イングリッシュサマーキャンプで楽しかったこととしては、ALTによる活動の評価が高い傾向にあった。これは、参加者の期待が英語にあるためと、活動がその期待に応えられたためと推察できる。活動の中でも比較的「自己紹介」と「ヨガ」の評価が低かったので、来年度へ向けて改善が望まれる。

イングリッシュサマーキャンプで良かったことは、楽しかったことと同様に、英語を中心とした行事であった。「ALT」及び「活動」の評価が高い。このことは、充実したキャンプになった証といえる。なお、キャンプ場の評価が中程度なのは、プログラムに野反の自然を生かした活動を設定していなかったためと考えられる。中之条地区からの参加者も多いため、この機会に野反の自然を味わってもらえるような工夫をしていく必要があった。

イングリッシュサマーキャンプを通して、英語の力が高まったかの問いは、参加者の全員が、英語の力が高まったと感じている。英語の力の伸びを実感できるような活動が、参加者の満足度に直結すると考えられるので、活動の内容については、より充実させるよう工夫していく必要がある。

来年、同じようなキャンプがあったら参加しようと思うかの問いは、ほとんどの参加者が来年度の参加について肯定的に捉えている。再参加も良いが、今年度の様子を広報していくこと等、新たな参加希望が増えるように、検討していくことが重要であろう。

(6) 郡民体育祭について

(生涯学習課長)

平成30年度 第57回吾妻郡民体育祭の日程資料を配付する。教育委員の郡民祭結団式の出席の都合を確認する。

(7) その他

(教育長)

再度確認する。教育委員会として、ヘリコプター搭乗体験事業中止を決定し、代替事業でなく、新たな事業を検討していくことによろしいか。

(異議なく承認)

平成30年8月10日の県防災ヘリコプター「はるな」墜落事故に伴い、しっかりと、児童生徒の心のケアを行いたい。現在週1回のカウンセラーの派遣が、足りないようであれば、県に増やすように要求したい。各校長に、まずは担任と養護教諭で、子供の状況を把握するように指示をした。カウンセリングを行う場合は、保護者に連絡をして、子供の意思を尊重しながらカウンセリングするように伝えた。心のケアは、長期的にフォローしたいと思っている。

また、保護者についても、小中学校に在籍していない保護者の場合であっても、ケアの対象としたいと考えていたが、群馬県で、ご遺族の方を対象としたケアを考えているという情報があった。教育委員会としては、児童生徒及び保護者のケアについては、専門家をお願いしたいと考えている。

次に、適応指導教室の件である。夏休みにも関わらず、指導員は教室を開けていた。友人と適応指導教室を訪れ、学校の補習にも参加している。学校とつながりが持てた様子である。

猛暑時のプール対応として、町民プールの休場基準を設定した。安中市の水泳大会中止や、新聞紙上等で、高温によるプール休場が話題になっていた。この度、水温と気温と、WBGT値で基準を設けた。各学校についても、同一の基準で行うようにする。

最後に、イングリッシュサマーキャンプは、参加者が15名であったが、少人数でアットホームな雰囲気、2日目は少し雨に降られたものの、一泊二日を無事に過ごすことができた。スタッフ16名で、食事の調理を行ったので、子供達は英語活動に専念することができた。キャンプ終了当日に、スタッフで集まって反省会を行っているので、次年度につなげるようにしたい。

17 閉会の宣言

午前11時50分、教育長、教育委員会会議の閉会を宣す。

***** 次回の会議について *****

平成30年9月20日(木) 午後9時30分 於：教育長室

18 議決事項

議案第1号 平成30年度教育費等予算の補正について

議案第2号 第56回吾妻警察署長杯ソフトテニス大会の共催について

(承 認)